

静岡 沖縄を語る会

第53号

2022年4月21日(木)

清水区西久保300の12

富田英司

ゆうちょ口座

静岡・沖縄を語る会

00890-1-152770

5月21日(土)午後2時 あざれあ
語る会総会・記念講演は

木元茂夫さん

(ファイト神奈川/ピースデポなど)

木元さんは先月の沼津・今沢海岸での日米共同訓練への抗議行動に神奈川から参加してくれました。今回は新たな段階に入った日米の軍事一体化の構造や問題点などを話してもらいます。以下は木元さんのFacebookから転載しました。

3月10日 沼津海浜訓練場で日米共同訓練に抗議

12月の北海道・東北の演習場でのレゾリュート・ドラゴン21に続いて、沼津海浜訓練場と東富士演習場で日米共同訓練が行われている。10日には抗議行動が行われ、30余名の人々が参加した。この日は陸自水陸機動団は集会の開始前に上陸訓練は切り上げてしまったが、日米の大型輸送ヘリCH-47とCH-53Eが上空を飛び交った。

東富士演習場では、日米のオスプレイが訓練を行った



—陸自ホームページより 1米海軍HP 3月9日LCUでの車両の揚陸

新年度の会費納入をお願いします 今年度から3000円にさせていただきました

昨年度は会の財政健全化のカンパと会費納入にご協力いただき大変ありがとうございました。新型コロナウイルスにより沖縄が困難な中で、沖縄の本土復帰50周年を迎えます。憲法の改悪を含めた政府の攻撃の前面に立つ沖縄は今年の秋、知事選挙を迎えます。会員の皆さんから「会費のただ取り」と言われないように、プランを作成し、活動を充実させますので、よろしくご支援ください。

沖縄を戦場にしないため、賛同し、行動に加わろう！ —新たな市民団体「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」発足—

山崎ひろみ(静岡・沖縄を語る会共同代表)

ウクライナ情勢が緊迫化している中、沖縄が再び戦禍に巻き込まれることを阻止しようと、新たな市民団体が発足した。名称は「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」。世界情勢とあいまって台湾海峡での緊張が叫ばれる中、南西諸島で自衛隊の配備が進んでいることを踏まえ、沖縄が再び戦場になる恐れがあるとして、沖縄県民が一つにまとまって戦争反対の声を上げようと呼びかけ、さらに日本全国の危機ととらえ、全国に

向けて賛同を呼びかけている。

今年1月11日、同会の設立趣意書がまとめられた。呼びかけ人は、新川明、高嶺朝一、石原昌家、桜井国俊、ダグラス・ラミス、前泊博盛、伊佐眞一、大城貞俊、具志堅隆松、三上智恵、与那覇有羽、事務局長・山城博治。その後、共同代表には、石原昌家、具志堅隆松、ダグラス・ラミス、宮城晴美、山城博治の各氏が決まった。

「戦争断固阻止」の一点での結集呼びかけ

設立趣意書では、「二度と沖縄を戦場にさせない」「琉球弧の島々を攻撃の標的にさせない」ための会であることを表明。現在146万9000人が住む沖縄列島に、戦争が起きれば計り知れない数の犠牲者が出ることを、そしてそれが空想でなく、現実とその恐れが高まっていること、自衛隊と米軍は琉球弧の島々(与那国—石垣—宮古—沖縄—奄美)にミサイル部隊の配備を計画し、島々を戦場とする「日米共同作戦計画」原案を策定し、両政府がそれを正式な戦争計画に作り上げようとしていることに対し、「私たちは、琉球弧の島々が戦場になることを断じて許しません。『台湾有事』、『尖閣有事』と称して住民の命を犠牲にすることは許

されないことです。『日米共同作戦計画』原案の策定に強く抗議し、撤回を要求します」と述べ、一切の戦争準備の中止を求めている。

また、日米両政府そして国際社会に対し「琉球弧の島々を戦場にさせないこと、決して武力に訴えることなく対話によってこの東アジア地域に平和実現を図っていくことを強く求める」とし、それぞれの多様な立場を乗り越えて「戦争断固阻止の一点」での結集を掲げ、若い世代の未来を殺戮のない平和な世界にするため、この県民運動に参加してほしいと強く呼びかけている。

発足！

ノーモア沖縄戦 命どう宝の会

「二度と沖縄を戦場にさせない」——皆さまのご賛同を広く呼びかけます。

平和を望む全国の声を集結し、戦争への道をストップ！

ご賛同、ご支援を呼びかけます

<http://nomore-okinawasen.org>

77年直、戦争に引き込まれた沖縄にふたたび戦争の危機が迫っています。中台間の緊張を煽る日本政府は与那国、石垣、宮古、奄美、馬毛島の島々にミサイル基地や宙間弾頭電着増設を計画し、「台湾有事」を口実に戦争準備へと突き進んでいます。軍事力強化は国家間の緊張感を高めるばかりで、ひとたび衝突が起これば戦争がエスカレートすれば、真っ先に標的にされるのはこれらの島々であり、特に世界に迫っている韓国、台湾、東アジアなどの将来、琉球島に戦火が及ぶのは火を見るよりも明らかです。こうした状況の中、危機感を抱いた沖縄のジャーナリスト、学者、文化芸術関係者、平和活動家などが一堂に集い、全国に向けて声明を発表しました。ぜひ、ご賛同、ご支援をよろしくお願いいたします。数千人の力を結集し、政府に対し外交的壓力による平和的解決を求めています。ぜひ、ごいっしょに戦争への道をストップさせましょう！上記ウェブサイトにある同名発足の趣意書をご覧の上、呼びかけ人または賛同人になっていただければ幸いです。カンパご支援は一口500円からお断りしています。Fax、郵送でも受け付けます。裏面用紙にご記入の上、お送りください。【添付先】〒900-0021 沖縄県那覇市泉崎2丁目105-18 Fax:0980-55-2243(仮)

【ゆらぎ】銀行以外から送金される場合【口座】七〇八(ナナゼロハチ) 口座 708 振込種別:普通預金 口座番号:0174209 名義:アワカキヒロミ(会計担当)

【ゆらぎ】銀行以外から送金される場合【口座】七〇八(ナナゼロハチ) 口座 708 振込種別:普通預金 口座番号:0174209 名義:アワカキヒロミ(会計担当)

ノーモア沖縄戦 命どう宝の会 info@nomore-okinawasen.org

石原昌家、具志堅隆松、ダグラス・ラミス、宮城晴美、山城博治

＜設立呼びかけ人＞

新川明(沖縄タイムス元社長)、高嶺朝一(琉球新報元社長)、石原昌家(沖縄国際大学名誉教授・沖縄戦史)、桜井国俊(沖縄大学元学長・環境)、ダグラス・ラミス(国際政治学・元海兵隊員)、前泊博盛(沖縄国際大学教授)、木村勝(鹿児島大学名誉教授)、伊佐眞一(沖縄近代史家)、大城貞俊(作家)、宮城晴美(元琉球大学教員)、与那覇有羽(琉球大学前学長・環境)、具志堅隆松(鹿児島県ラシティア)、三上智恵(対馬丸語り部)、謝花悦子(伊江島反戦平和資料館館長)、宮城隆美(沖縄女性史家)、三上智恵(映画監督・ジャーナリスト)、山城博治(平和運動家)、與那覇有羽(民衆作家)、新垣紀美(若者メンバー)、小波津真実(若者メンバー)、新垣雅雄(団体職員)

沖縄から全国への参加呼びかけ

同会では、「全国のみなさんへ」として次のようなメッセージを発している。

全国の皆さんへ

平和を愛する全国の友人の皆さま。今、「南西諸島」全域が戦場にされようとしています。

日米両政府は「台湾有事」を声高にあおり、「有事勃発の際」には台湾に近い沖縄の島々（与那国島、石垣島、宮古島、沖縄島）や鹿児島島の奄美大島、馬毛島など「南西諸島」と称される島々が戦闘に巻き込まれ戦場になると公言してはばかりません。それもそのはずで、現在これらの島々には対中国戦争をにらんだ自衛隊のミサイル基地やレーダー基地そして自衛隊の駐屯基地が急ピッチで建設され部隊配備が進められています。「有事勃発の際」にこれらの島々から近海を通過する中国艦船や航空機にミサイルが発射されて攻撃が加えられる計画です。さらに、昨年から相次いで開催された日米首脳会談や外務・防衛担当閣僚会議「2プラス2」では日米が一体となって行動することが確認されました。島々の自衛隊基地は米軍との共同使用となり、同時に米軍の長距離高性能ミサイルが配備され、島々から直接中国本土を攻撃できる態勢を構築することが合意されています。

昨年末、この日米共同の軍事行動計画を共同通信がスクープし、初めてその概要が明らかになりました。岸田首相がにわかに強調し始めた「敵基地攻撃能力」は直接的には自衛隊の攻撃力強化を指していますが、事実上は米軍の長距離ミサイル配備を指していると考えられ、これが戦争の引き金になりかねません。この日米の中国をにらんだ共同の軍事計画は、当然対象にされた中国の強い反発を呼んでおり、計画通り軍事行動が展開されると、島々が真っ先に反撃の対象とされ、戦場となることは必至です。ひとたび戦火が開かれると島々は逃げ場のない地獄の戦場と化すことは誰の目にも明らかであるにもかかわらず、残念ながら、日米両政府からは「有事」を回避するための外交努力が全く窺えません。それどころか、日本政府はことさら「中国脅威」を喧伝して国民世論を「戦争やむなし」に誘導していると考えられています。岸田首相はじめ政府閣僚、自衛隊関係者の言動に身震いする恐怖を覚えます。

全国の友人の皆さま。私たちはこのような事態にあたり、再び沖縄の島々を、「南西諸島」全域を戦場にさせまいと、去る1月31日「ノーモア沖縄戦 命どう（又チドゥ）宝の会」を設立し、県内外に「戦争反対」「外交で平和を築け」との私たちの強い思いを発信することに致しました。会の設立趣旨、活動計画など詳細については、ホームページをご覧ください。戦争へと暴走する日米両政府の拙速な軍事行動を止め、対話による平和を求める世論を作り出し、その力で無謀な戦争を止めましょう。全国の皆様のご理解とご賛同、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。戦争へとひた走る政府の暴走を止めましょう。

ホームページアドレス : <http://nomore-okinawasen.org>

平時からの対話の枠組み強調

3月に開かれた発足集会では、琉球新報報道部長の新垣毅さんが、『台湾有事』の平和的解決を～あなたと未来の命を守るために～と題して講演。ウクライナ情勢について、2014年のキッシンジャーの言葉「ウクライナは決して西側のロシア前線基地になてはいけな、むしろ架け橋でなければならない」を

引用し、台湾有事についても、中国の識者の言葉『日本には平和憲法と日米同盟がある。中国は日米同盟に反対していない。日本にはまた日中友好条約もある。これも守ってもらわないと困る』を示し、「平時から軍縮についての協議をすべきだが、残念ながら軍拡に向かっている」とし、戦争に至らない方法として「隣国

を大切に」「平時からの対話の枠組みの重要性」などを力説した。後半では「沖縄は100年以上国防の道具にされ続け犠牲になってきた。今年復帰50年。これ以上犠牲を続けさせていいのか、沖縄の人々を分

断させる植民地主義を終わらせるためにも、自己決定権を実践し、新しいステージを作っていきたい」と結んだ。



「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」発足集会

政府の「次は沖縄」発言 許さない

この後、共同代表らが意見表明を行った。このうち、ダグラス・ラミスさんは、昨年末政府が「南西諸島にミサイル拠点」と発表したことについて、「もし米軍、自衛隊がミサイルを撃ち込むなら、やり返すことは戦争犯罪にはならない。かつて沖縄は、朝鮮、ベトナム、湾岸、アフガンなどの戦争の攻撃拠点だった。当時相手が空軍力がなくやり返せなかったが、今は違う」と述べ、再び沖縄を戦場にしていけないと訴えた。このほか、鹿児島県ではすでに命どう宝の会の県民の会が立ち上がったことも報告された。

最後に山城博治事務局長が登壇。「政府は『次は沖縄』

と言っている。なぜ台湾有事で次は沖縄なのか、そんなことは絶対許さない」と述べ、この会の目的として「目標は二つ。台湾有事、沖縄有事に抗していく。与那国、石垣、宮古の島々を孤立させない。そのための世論形成、県には県議会決議をしてもらい、戦争反対の先頭に立ってもらう。戦場にさせないため再び県民投票条例の成立を求める。沖縄は戦場になることを望んでいないことを世界に向けて発信し、国連にも行く、再び地獄にしていけない。皆さん、それぞれの地域で会を立ち上げてほしい。そして大きな反戦の輪を作っていきたい」と呼びかけた。

静岡でも大規模結集を「県民の会立ち上げ」を

「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」の概要はこの通り。この会の立ち上げに際して、私たちの出来ることは何か。連日のウクライナの惨状は77年前の沖縄戦そのもの。当時の米軍の無差別爆撃で、逃げ場のない民衆は爆撃の犠牲になるか、暗いガマ（壕）に身を潜めるかしかなく、まるでウクライナでミサイル攻撃の犠牲になるか、地下室に身を潜めるかしかない人々とほぼ重なって見える。ひとたび戦端が開くと現状のように

止めることが困難で、その間も一般市民や兵士の犠牲が増大する。止められない。当然だが、戦争になる前に、止めなければならない。人間の叡智を駆使して、南西諸島の戦端を止めるために、その手立てとして、まず多くが声を上げること。その足がかりとして、出来ることとして、この会への結集が今差し迫って必要ではないだろうか。南西諸島では今もミサイル基地建設が進んでいる。止めよう。島々を平和な島に戻そう。

「復帰」50年を迎えた沖縄の今

松井 裕子（沖縄平和ガイド・南風原町在住）

ハイターイ！静岡の皆様の日頃の活動に敬服しております。久しぶりにお伝えできていることに感謝しております。

で、いきなり“人参シリシリ”再発見のお話です。沖縄のスーパーの総菜売り場で、あるいは食堂のメニューにもある、おろし金でスライス？された人参を炒めて卵を絡めた極めてシンプルな家庭料理です。越後高田生まれの私が連想するのが、もやし炒めに卵を絡めるのが庶民のおかず。人参の赤と卵の黄色で鮮やかではありますが食堂のメニューには？という反発と、おろし金なんぞ使わない拘りから永らく包丁で千切りを続けて参りました。

ところが試しに“シリシリ”してから180度の転換。採れたて人参であれば即、サラダに、炒めるにも火が通りやすく天ぷらにも手軽、一本の人参でもお椀一杯のシリシリが。コロナ禍の時節中、少し違うことをやってみようとの思い付きでしたが、何を隠そう衰えてくる歯にやさしい発見でした。“シリシリ”オススメですよ。

◆ 辺野古工事は遅々として進まず！

さて、政府・防衛省が新基地建設に向けて辺野古・大浦湾埋立て土砂を海上から搬送する方針を掲げ、琉球セメント会社の安和（地区名）栈橋での積み出しが始まったのが2018年12月。地元の島ぐるみ会議を中心に新たな現場での取り組みが始まりました。南部からは遠いのですが島尻ブロックは毎週水曜日を担当、ゲート前で幟を立てボードを掲げてダンプの搬入を1時



■安和の栈橋で土砂の搬入作業に幟やブラカードを掲げて抗議する市民たち（2022. 4. 4 沖タイムスより）

間でも遅らそうと立ち続けています。足かけ4年になりますが埋め立ての進捗率は全体の約10%、単純計算であと30年かかります。ダンプ数のチェックを行うほどの官邸から沖縄防衛局が叱咤激励されて考えたのが、これまでの右折ダンプに加え、左折、直進と三方向からの搬入。決して効率が良いと思われない、抗議者への威嚇としか思えないやり方が、安倍⇒菅⇒岸田の下で強化されています。闘いの形は現場それぞれですが、安和では少数の人々が入れ替わり立ち替わり有効な活動を展開しています。“コロナ”が落ち着いて全国から仲間が訪れてくださる日を楽しみにしています。

沖縄防衛局が申請していた埋め立て設計変更について県は1年7カ月かけて審査、昨年11月末に玉城デニー知事が不承認を表明しました。国交省による処分取り消しの動きからも南部からの土砂採取計画は取り下げられていません。

ガマフヤーの具志堅隆松さんが2021年7月に1700余の市町村議会に発送した決議要請に200余の報告が寄せられて



●日米共同使用が目論まれる辺野古新基地建設を許さない。沖縄・琉球弧は日米の「捨て石」ではない！

います。また市民たちが学者を巻き込んで南部地域での開発を止めようと2通りの条例づくり案件を3月県議会に陳情したところでは。

どのような取り組みも一気に成果を上げる訳にはいきませんが、細い流れが合流してやがて大きな勢いとなることを願っています。先日の安和行動、「れ」ナンバーの車から一人降りて共にボードを掲げる方がいて勇気づけられました。

◆若い人々へ沖縄の思いを繋ぐ

つくづく出会いの不思議さを感じるのは、具志堅さんが遺骨収集していた所が、熊野鉾山（会社名）が採石のために予め伐採した米須の丘陵であったこと。防衛局が南部から土砂の7割を採取する計画であることから現在進行形の基地建設と77年前の沖縄戦が一挙に繋がる様を目にしたからです。

ガマ（自然壕）を案内して修学旅行生に「皆さん、沖縄戦は実は未だ続いているんですよ」と謎かけをします。高校生たちは首を傾げるのですが、地元の小学生に同じ質問をすると即座に「基地があるからでしょう」と答えが返ってきます。那覇を除いた南部に米軍施設は無く日常は米兵を目に

することはありませんが、様々な情報から県民生活に米軍基地が深く入り込んでいることを知るのでしょう。

コロナ感染でキャンセルが続く中、先日は神奈川の茅ヶ崎北陵高校の3年生が真壁村（現在は糸満市）のアンディラガマで僅かの間の追体験をしました。本来なら2年生の秋に予定されていたものが漸く実現したのでしょうか。米軍のイラク侵攻後に生まれた若い彼らですが、多感な時にコロナ世界を迎えていることを想わずにはいられません。

◆ノーモア沖縄戦！琉球弧を再び戦場にす るな！

この2カ月以上のロシアによるウクライナ侵攻についても様々に思い巡らすことがあります。米国に歩調を合わせて同盟強化を図る日本では一方の情報が多く流されている様に感じること、また情報過多の中で何が真実なのか？立ち止まって自分の頭で考えようとするけれども判断の難しさを思い知らされる日々です。何故ウクライナに侵攻するのか、最低の理解を求めてウクライナ本、ロシア本を読むうちにその背景が少し掴めてきましたが、欧米の代理戦争の様相を示している中で単純に戦場の悲惨さだけを切り取った報道のされ方に違和感があります。本来であれば戦力と交戦権を持たない憲法を持ち、核被害を存分に受けた日本が仲裁役に最適はずですが、如何せん火事場泥棒的に改憲に、軍備増強に利用しようとあさましい姿を見るばかりです。

“次は台湾有事、へと国民を導こうとする動きに注意せずにはいられません。タゲーニチバラナヤー！（見出しは編集者大石）

静岡・沖縄を語る会総会 5月21日(土)午後1時30分 あざれあ

2021 年度活動報告

はじめに

様々な面で大きな成果を実現した「オール沖縄」ですが、そうであるがゆえに本土政府からの攻撃は熾烈なものがありました。呉屋会長の金秀グループを入札から排除するなど、財界関係者のオール沖縄からの引きはがしなど、大変過酷なものがありました。それにより私たちは2022年の1月には名護、南城という2つの市長選で敗北するというショッキングな事態を目の当たりにしました。これは4月にも沖縄市(かつてのコザ市)においてオール沖縄候補が1万票の差で負けるという事態に至っています。

しかし沖縄は3月に「ノーモア沖縄戦、命どう宝の会」が立ち上がり、オール沖縄で触れられなかった琉球弧の自衛隊配備にも反対する旗が立ちました。ロシアのウクライナ侵略により、改憲勢力は「9条では日本を守れない」「核シェア」というとんでもない、勇ましいだけの「悪乗り」をしている中、対抗できる力強い運動を進めましょう。

連続講座の開始

米軍の世界戦略の変化が日本、とりわけ沖縄の琉球弧にどのような変化をもたらしているのか、たとえばベトナム戦争では米軍の出撃拠点の一つだった広大な那覇軍港、長い間使われていなかったこの軍港が、米軍の新しい戦略に組み込まれています。

辺野古新基地に反対するのは当然ではありますが、琉球弧への自衛隊配備に反対すること、そして海兵隊の駐留している御殿場のキャンプ富士、さらには沼津・今沢海岸への日米合同の上陸訓練と、目まぐるしく変わった背景を理解、そのことが私たちの住む静岡にどのように表れているかも知るためにこの連続講座を始めました。

第1回石川正勝さんによる全体像の理解。第2回東富士の具体的な変化を渡辺希一さん第4回目は緒方修さんによる「琉球弧ミサイル基地化」でした。

第3回目は岸本美代子さんに「琉球舞踊入門」でした。DVDの方式違いにより上映ができないという大変残念なものでしたが、講演は興味深く聞くことができました。

新型コロナと宣伝

語る会の重要な活動でしたが、4割ほどを中止せざるを得ませんでした。これからはチラシ無しでもスタンディングで訴えられるなど、工夫が必要です。また、宣伝を事務局会議の後にやっていましたが、会議場所の変更により、静岡駅地下道だけでなく、青葉公園でも行います。

写真展

静岡市民ギャラリーが「横断幕を掲示しない」ことを求めるなど、不当な介入を行ってきました。横断幕を付せようと言明しなかったために、使用申請書を受理しながら、料金の振込用紙を発送し
又使用

てきませんでした。私たちはギャラリーの指定管理者である静岡文化振興財団に話し合いを申し入れ、3回の話し合いの結果「横断幕不表示を使用許可条件にしない」ことができました。

写真展自体の内容的充実など、今後の課題もあります。

財政

2021年の年末にお願いした「年会費の支払いとカンパ要請」に多くの方に応じてもらえたおかげで、財政危機は解決しました。遅ればせながら郵送の宛名シールに支払い方式を具体的に示すという当然のことを開始しました。

2022 年活動の方向

語る会事務局の強化に向け

事務局の業務を明確、分担化し、それぞれに協力しながら活性化をします。

具体的には以下の8つの部門です。

街宣…月に2回の街頭宣伝を受け取られやすい工夫を企画する。

会報…新型コロナにより、街頭宣伝がむづかしくなる中、会員さんへの広報に充実・工夫をする。

発送…名簿と会費入金の管理

イベント・学習…新たに開始した連続講座をはじめとした企画を充実させる。

物資販売…沖縄の黒糖・マース(塩)に始まり、販売物資の企画開発も。

IT…ホームページ、ブログ、Facebookなどの充実

渉外…平和運動団体などとの連携、マスコミ・記者会見対策

会計…活動や企画を支える財政の管理と計画

ノーマア沖縄戦 命どう宝の会員拡大

「命どう宝」は個人参加の組織ですが、鹿児島では「鹿児島の会」の立ち上げが行われ、会員の拡大が行われています。静岡・沖縄を語る会の静岡県内の会員は300人ですが、型通りの「参加呼びかけ」では100人くらいで止まってしまうことが予想されます。静岡県内500人の会員実現を掲げ、実現のために沖縄の声を紹介するなど様々なイベントを企画・実施します。

また、様々なイベントをとらえて積極的に宣伝も行います。

平和運動への積極的参加

これまでも積極的にかかわってきたことを自負していますが、ロシアのウクライナ侵略を「チャンス」とばかりに改憲から核配備まで言い出した勢力と闘うために、平和勢力との共同行動を進めます。

「復帰」50年を考える ∞ 沖縄・琉球弧の音楽から

大石 恒雄（静岡・沖縄を語る会）

戦争という二文字が世界を変える。

3月19日、『ノーモア沖縄戦 命（ぬち）どう宝の会』の発足集会在沖縄市・沖縄市民会館で開かれた。オープニングで、若手の三線が一・稲嶺幸乃さんが、「ていんさぐの花」「ウムィ唄」などの曲を歌った。続いて、古謝美佐子さんが「童神」（天の子守唄）・「平和星願唄」（まぶいぶみ＝落ちた魂を元に戻すの意）を歌い、「戦争というたった二文字が世界を変える……、これほどいやなものはない」、「（沖縄の状況は）とても悔しい。……」と語った。オジイの形見の三線で「大切な心は『命どう宝』を忘れないで」と歌う若手、かたや琉球・沖縄の音楽を「全国」に広げた大御所だ。「ノーモア沖縄戦」の意識が広く行き渡り、歌が暮らしの中に生きていていると感じた。

「復帰」50年。何が変わったの？・・・ナーグシクヨシミツさんの音楽から・・・

♪♪ 27年の時が流れアメリカの時代が終わったら／日本の国がこの島に来るよコトバも人も日本になるんだ／子どもたちは信じたんだ／日本になったこの島には雪が降ると（略）35年の時は流れ／日本の時代は続くけど 日本の国が／この島に来て何が島を変えたのか？／何を求め？何を失い？大人たちは生きて生き抜いたのか／「独立・琉球・NIPPON・亜米利加」：沖縄に降る雪

♪♪ 1609薩摩の侵略で琉球国王は引き摺り下ろされ／理不尽に奪われた守礼の邦は服従と屈辱で命を繋いだ／（略）琉球髪切り落とし名前も言葉も変わり国は処分された／（略）想いは奪われ右に習わされ国体護持のため捨て石にされた／戦場となり焼け野原の辛さアメリカ世…／日本の世…次は何処へ行く？／「宮城善光1965～2015」：激烈！不屈！琉球列伝！

♪♪ CarRadio からの音楽が風に溶けて／那覇から北に向け Drive／夕暮れが海も空も赤々と染めてアメリカが広がっている／金網の向こう側…だけど！ここは沖縄だ…愛しき沖縄なんだ／（略）ここは沖縄だ…愛しき琉球だ／「不屈の琉球」：DRIVE

♪♪ 数えることの出来ない名も無き先人たちが／守り繋ぎ 継いでくださいました／力あわし宝の島を未来の子孫に誇って渡そうよ／（略）琉球…しなやかに流れ行く雲の様に／琉球…空を翔る龍の様に／我ら琉球この誇り 奪われることなどしない／勝たなくてもよいしかし！負けてはならない／「勝たんていんしむん！やしが負きて一ならん」：勝たんていんしむん！やしが負きて一ならん

1965年・沖縄生まれの宮城善光さんはアメリカ統治から日本再併合（復帰）後の揺れ動く沖縄社会の中で感性を磨いてきた。1985年、広島生まれのナヴィと「寿」を結成。琉球国、日本併合（琉球処分）、アメリカ統治、再併合の歴史、文化、くらしを表現し、沖縄の自己決定を希求する。琉球弧の「軍事要塞化」の進展を目前にして、琉球・沖縄を日本「本土」防衛の、そして米国の「捨て石」として利用しようとする思考は琉球併合以来一貫しているのではないかと。ガッティンナラン！マキテーナラン！聴いてみてください。

ウクライナ・台湾と沖縄

増田千次郎(沖縄を語る会・顧問)

ロシアのウクライナ侵略で、核兵器の事は在日米軍の主力が駐留する沖縄県民にとって、南西諸島の自衛隊ミサイル基地どころの問題ではない。戦略核の配備は重要戦略で「配備を明言せず」という人権無視の発言をする米国および日本政府にはロシアを非難する資格がない。安倍や日本会議が宣伝する「台湾有事が日本有事」ならば、沖縄は「住めない地域」になることは確実である。

ロシアの蛮行 かつては日本軍も

ロシアの侵略以来、報道ではその蛮行が声高に報道されるが、歴史は繰り返す如く、ロシアの大義はかつての日本の大義である。「五族共和」「植民地の解放」等の身勝手な大義を掲げて侵略し、神軍は蛮行や娼婦を買う等を行うはずはない、とのたまったのであり、一部の方々は今でも声高にそう語っている。そのうえ、報道もかつての日本を忘れたのごとく、ロシアを非難し、さらに第2次世界大戦末期の中国東北部やサハリンでのソ連産戦時の蛮行を語る輩もいる。しかし、ロシアや日本のみの蛮行でなく、戦争が「優しい国民」を蛮行に駆り立てることを反戦の軸にすべきである。チャップリンが「1人を殺せば殺人だが、千人を殺せば英雄」と映画「殺人狂時代」で語ったが、ベトナム戦争時の米軍の蛮行やソマリアでの米軍を、今回のロシアの蛮行のように各国は報道したのか、問いたい。

佐渡金山は徴用工のたまもの

話は変わるが、佐渡金山世界遺産登録に韓国が反対表明した。日本国民の多くが「またか」と反朝鮮の感情を示したが、現在の佐渡金山の大半の文化財的施設は明治以降に三菱が整備した施設で、特に徴用工が働いていたことは確かである。政府は江戸期の金山を、と言うが、幕府当時の施設はごくわずかし

か残存せず、三菱の施設は世界各所の金山で同様の施設が現役であり、文化遺産価値を疑う、佐渡観光をもくろんだ短絡的な発想であろう。

民族や国家といった厄介者

民族問題は宗教問題と同様に、私どもに突き付けられた社会的理想を妨げている。ロシアとウクライナ、そして中国と台湾・チベット・ウイグル自治区、そしてアフリカの数か国、かつてのユーゴスラビア、あげればきりがなく存在する問題である。ふと、沖縄の問題も同じ日本とい
いながら、どこかで民族的差異を本土の人々
は感じているために、無関心でいられるのでは、
と疑いたくなる。たとえ、同じ民族でも英国と米国は別の国である。

恨みの連鎖

しかし、異なった文化を有するウクライナをロシアと同族とみるのか、それとも白軍やドイツ・ナチに協力しソ連軍と戦ったドン・コサックへの恨みを晴らしたいのか、スターリンは戦後、穀物を収奪してウクライナを飢餓地獄にした。無知がなせる所業である。キエフ公国がロシアの元とはいかなる歴史を学んだのか？ロマノフ朝はポーランド・リトアニアに近い出身である。同様に香港・台湾には漢民族が多いが、特に台湾は大陸と異なった歴史的文化を持つ人々の集団である。人民解放軍は「沖縄の米軍」と同様に新疆は人民解放軍と戦ったウイグル族からの占領地であることが忘れられないであろう。いずれも同族であろうがなかろうが、「人権意識」のない輩が権力を握ったことの危機である。

しかしながら、人々が危機に遭遇していなが
ら、ミャンマーとウクライナでは比較にならない
ほど、世界が向ける目の違いに違和感を覚え
るのは小生だけだろうか？

静岡・沖縄を語る会総会 お知らせ

日頃より静岡・沖縄を語る会の活動にご支援ありがとうございます。
下記のように今年の総会を開催します。ぜひご出席ご参加をお願いします。

と き 2022年5月21日(土)

13時30分 総会 14時 記念講演

ところ 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」5F 第3会議室
(アクセス JR静岡駅北口から国1沿いに西へ徒歩9分)

記念講演

「ウクライナと沖縄・南西諸島の危機」

すべての基地に『NO!』を・ファイト神奈川 創設メンバー
講師 木元茂夫さん

ロシアのウクライナ武力侵攻。主権
国同士の戦争が21世紀のいま引き
起こされるとは。これまでのパラダ
イムが覆されることを目撃しながら、
この後国際社会はどう対応できるの
か、私たちが注目する沖縄を含む南
西諸島軍事要塞化問題にどう立ち向
かえばよいかなど、木元さんに、多
彩な活動経験をもとに語っていただ
きます。



2021年 馬毛島にて

講師プロフィール

1955年横浜生まれ。1970年に靖国
神社国営化法案反対運動に参加。80年
代半ばから外国人登録法の指紋押捺制
度に反対する運動に参加。1996年「す
べての基地に「NO!」を・ファイト神奈
川結成に加わる。

著書「アジア侵略の百年」(社会評論社)

問い合わせ

静岡・沖縄を語る会事務局
090-5107-6348 (富田)

「沖縄復帰?50年」写真展

沖縄は今年本土復帰50年。しかし、本当に日本に「復帰」したのでしょうか？ 50年前の軍事優先の米軍支配下で、基地のない平和な島を求め、日本国憲法の下に帰りたい、との人々の悲願は叶ったのでしょうか？ 現実とは？

と き 2022年5月7日(土)～5月20日(金)

午前10時～午後6時まで

ところ 静岡 ギャラリー『集』
静岡市葵区

アクセス 新静岡駅より徒歩3分

主催 静岡・沖縄を語る会

090-5107-6348(富田)

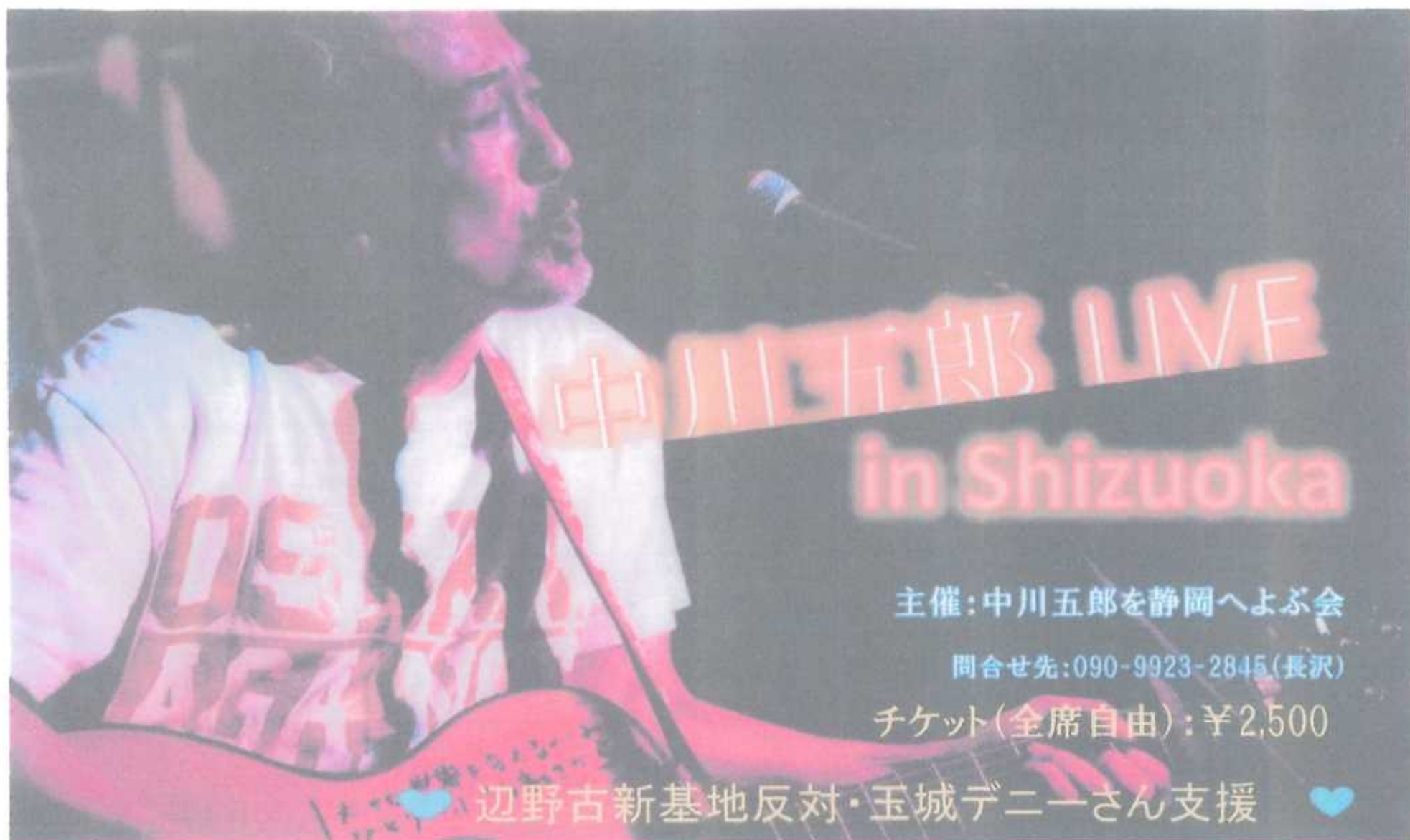


復帰前、住民らが祖国復帰を求めて行進した

沖縄公文書館所蔵写真



1972年5月15日、復帰記念式典で挨拶する屋良主席



中川五郎 LIVE in Shizuoka

主催:中川五郎を静岡へよぶ会

問合せ先:090-9923-2845(長沢)

チケット(全席自由):¥2,500

♡ 辺野古新基地反対・玉城デニーさん支援 ♡

2022年7月16日(土) 開場 13:30 開演 14:00

静岡市葵区七間町12-4
☎054-270-8991

会場:MIRAIエリアン コミュニティホール七間町